

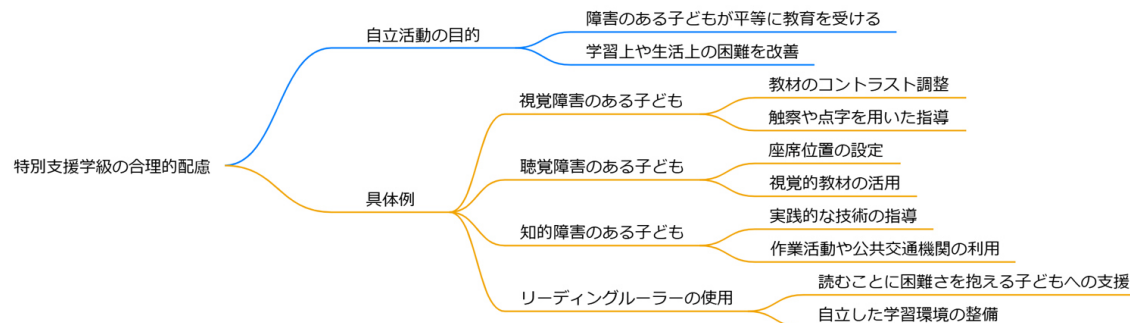
【GIGA×指導の工夫・改善】 自立活動における音声入力による合理的配慮

【概要】

題材名「相手に分かりやすく伝えよう」
 において、タイピングが苦手な生徒に対して、音声入力でまとめや振り返りをさせる合理的配慮を行った。

【考察】

- 生徒がタイピングの負担を軽減し、時間内に活動を終えることができ、達成感を味わうことができた。
- その後の活動においても、自ら、音声入力を選択するなどの成長が見られ、自立心や主体性の向上に繋がった。
- 音声入力の活用を交流学級での教科学習にも広げることができ、生徒の自信や学びの幅を広げることができた。



合理的配慮の実践

1

個別ニーズの把握

生徒一人ひとりの学習スタイルを理解する。

2

適切な支援方法の選択

タイピングが苦手な生徒には音声入力を提案する。

3

自己選択の促進

生徒自身が学習方法を選べるよう支援する。

4

自己肯定感の向上

成功体験を積み重ね、自信を育む。



仕事をやってるとね、ちょっと仕事きついなちょっと手を抜いちゃおうかなという時に、皆さんからこんにちはとか頑張ってくださいとか皆さんからまたやる気をもらおう。だから、生徒さんの温かい気持ちに本当にうれしいです。花が咲いてます、見てください。花壇をきれいにしました、見てください。学校って楽しいところだな、みんなでやるんだな、みんなで作ってるんだなとか感じます。ありがとうございます。